



御用組合に変質したJR総連 と「共に」会社の協力者へ！

脱落者らは、「JR総連と共に」と主張しています。松寄明さんが亡くなる前までは、JR総連は権力・会社との闘いを指導してきたのは事実です。しかし、現在はどうでしょうか。彼らはJR総連に幻想を抱いているのでしょうか？

JR東労組本部は、本部副委員長が運転中にイヤホンで音楽を聴いていたことに対する懲戒解雇処分について「不祥事だから救済はしない」と解雇撤回の闘いどころか懲戒解雇処分に賛同しました。JR東日本の職場では、JR東海以上のパワハラ・一方的転勤・不当処分などの攻撃があらこちらで続き、体調不良に陥ったり退職を余儀なくされる組合員が出ているにもかかわらず、裁判も労働委員会も全く取り組んでいません。

JR貨物労組本部は、車両所職場で輪軸圧力の作業データ改ざんが行われていたことについて、「不正行為」だと会社と同じ見解を打ち出し、「会社の調査に協力する」と言っています。しかし、改ざんは過去からずっと行われていたのであり、現場の社員（当然組合員）が勝手に行ったものではありません。組合員を守るために会社と闘うのではなく、会社の組合員に対する攻撃を認め、組合員を犠牲にしても会社と「良い関係」を保とうとしているとしか見えません。JR総連もJR東労組・JR貨物労組も御用組合＝JR連合・JR東海ユニオンと同じになってしまったということです。

時を溯れば、私たちJR東海労の闘いに対して「イケイケどんどんだ」などと非難する役員がいたり、「リニアに反対する組合には事務所は貸さない」と通告されたこともありました。そして関連会社での組織拡大を評価するどころか、それをつぶそうとして、ついにはJR東海労を除名するという気が狂ったとしか思えない行為に及びました。

JR東海労への組織破壊・「新労組」の結成の策動は、会社との関係の維持のために会社の意向を代弁しているものとはしか言えません。今や会社の代弁者、加盟単組からの脱落者をつくり出す組織破壊産別と成り果てたJR総連と、その手先となった脱落者たちを許さず闘おう！